

## 長雨・日照不足に対する農作物技術対策

令和3(2021)年7月6日  
下都賀農業振興事務所

6月29日から7月5日の期間、栃木県内は長雨と日照不足が続いています。

(小山市の降水量：平年比208.1%、日照時間：平年比10.4%、平均気温：-2.4℃)。

宇都宮地方気象台7月5日発表の週間天気予報によると、向こう一週間は、前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、9日にかけては前線の活動が活発となり大雨のところもある見込みです。このため、農作物管理の技術対策を徹底しましょう。

日照時間 (令和3年6月29日から7月5日まで)

観測所	降水量		日照時間		平均気温	
	降水量 (mm)	平年比 (%)	日照時間 (h)	平年比 (%)	平均気温 (℃)	平年差 (℃)
小山	82.0	208.1	2.7	10.4	21.3	-2.4
宇都宮	92.0	190.5	1.7	7.4	20.9	-2.4

栃木県の天気予報 (7日先まで)								
2021年07月05日17時 宇都宮地方気象台 発表								
日付	今夜 05日(月)	明日 06日(火)	明後日 07日(水)	08日(木)	09日(金)	10日(土)	11日(日)	12日(月)
栃木県	曇	曇後時々晴	曇一時雨	曇一時雨	曇一時雨	曇一時雨	曇一時雨	曇
降水確率(%)	-/-/10	10/30/20/30	60	50	50	50	50	40
信頼度	-	-	-	C	C	C	C	C
宇都宮 気温 (℃)	最高	-	27 (26~30)	30 (27~32)	26 (24~30)	27 (25~32)	30 (27~32)	30 (26~33)
	最低	-	20	21 (20~22)	22 (19~23)	21 (19~23)	21 (19~24)	22 (20~24)
向こう一週間(明日から7日先まで)の平年値								
降水量の7日間合計				最低気温		最高気温		
宇都宮				平年並 27 - 59mm		20.8℃		28.7℃

### I 普通作物

#### 1 水稲

6月22日調査の水稲生育診断ほ場において、1地点でいもち病の発生が確認されている。

また、栃木県農業環境指導センターのBLASTAMによる葉いもち感染好適条件判定結果では、7月に入ってから、県内10か所の調査地点のうち6か所で感染好適条件の日があったと判定されている。(URL：<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/file/data/Blastam/2021.htm>)

今後の気象予報からも、葉いもちが発生しやすい条件の日が続く見込みのため、ほ場をよく観察し、発生が認められた場合は、治療と予防効果のある殺菌剤を散布する。

特に、葉色が濃いほ場や水温の低い用水を利用している場合は、いもち病発生の恐れが高くなるので粒剤等で予防的に防除する。



## 2 大豆

- (1) 排水溝を整備する等、排水対策を徹底し、立枯性病害の発生を予防する。
- (2) 断続的な降雨により播種作業が遅れているほ場については、土壌が乾くのを待って播種作業を進める。また、畦立て播種を行い、出芽率の向上に努める。  
なお、播種直後に強雨が想定される場合は播種を見送る。

## 3 こんにゃく

- (1) 排水溝を整備する等、排水対策を徹底する。

## 4 ゆうがお

- (1) 排水溝を整備する等、排水対策を徹底する。
- (2) 炭そ病、褐斑細菌病が発生しやすいため、殺菌剤の予防散布を徹底する。

# II 野菜

## 1 野菜全般

- (1) 湿害をさけるためほ場周辺に排水溝や明渠を掘り、ほ場内が滞水しないようにする。
- (2) 曇雨天時の葉かきや芽かき等は極力控え、これらの管理は晴天時の午前中に行って、夕方には傷口が乾くようにする。
- (3) 曇雨天日が長く続くと茎葉が徒長気味となり、生理的落果や病害多発の原因となりやすいため古葉は早めに取り、風通しと日当たりを良くする。
- (4) ほ場作業が可能な状態になったら、殺菌剤の予防散布を徹底する。
- (5) かん水や追肥は多量に行わず、1回当たりの量を少なくして回数を多くする。
- (6) きゅうり・なす・トマト等は小果（S～Mクラス）で収穫し、株の着果負担を軽くする。

## 2 施設野菜全般

- (1) 軟弱徒長気味の生育となるため、ハウス屋根被覆の汚れを落とすなどして採光を高める。また、曇天時は遮光資材を解放して、できる限り光線を当てるようにする。ただし、曇雨天後の強日射は軟弱に生長した植物体に高温障害、蒸散過多による萎れ等を引き起こすことがあるので、遮光資材による遮光等、強日射・高温への対策を併せて準備しておく。
- (2) 灰色かび病等の病害が発生しやすい条件となるため、殺菌剤の予防散布を徹底するとともに、十分な換気や循環扇の活用により施設内の通気を図り、湿度低下に努める。

## 3 いちご

- (1) 苗の活着後は、定期的な葉かきやポット等の間隔を広げる等の管理により積極的に日光に当て、株の充実を図る。ただし、曇雨天後の強日射は、高温障害や蒸散過多による萎れ等を引き起こすことがあるので、遮光資材の活用等、強日射・高温への対策を併せて準備する。
- (2) 追肥は多肥とならないよう生育に応じて行う。
- (3) 炭疽病、うどんこ病、疫病の発生を未然に防止するため、殺菌剤の予防散布を徹底する。

## 4 夏秋なす

- (1) 全面マルチ栽培では、マルチ上への滞水を防止する。
- (2) 花や果実に光が当たるように整枝や葉かきを行う。
- (3) 菌核病、灰色かび病の発生を未然に防止するため、殺菌剤の予防散布を徹底する。

## 5 にら

- (1) 新植ほ場では、植付け溝への滞水を防止するため排水溝を整備する等、排水対策を徹底する。
- (2) さび病、白斑葉枯病の発生を未然に防止するため、殺菌剤の予防散布を徹底する。

## 6 雨よけトマト

- (1) 草勢維持のため、不良果の摘果を行い株の着果負担を軽くする。
- (2) かん水は1回当たり多量に行わず、天候をみながら回数を多くする。
- (3) 灰色かび病、疫病等の発生を未然に防止するため、殺菌剤の予防散布を徹底する。

## 7 夏秋きゅうり

- (1) きゅうりは浅根性で、滞水すると根が酸素不足となり生育が抑制されるので、特に排水対策を徹底する。
- (2) 花への採光性や風通しを良くするため、側枝かきや葉かきは早めを実施する。
- (3) うどんこ病やべと病、灰色かび病等の発生を未然に防止するため、殺菌剤の予防散布を徹底する。

## 8 ねぎ

- (1) 植付け溝への滞水を防止するため、排水溝を整備する等、排水対策を徹底する。
- (2) 土入れ・土寄せは、降雨後の加湿状態で行わない。
- (3) べと病、黒斑病、さび病等の発生を未然に防止するため、降雨前に殺菌剤の予防散布を徹底する。

## 9 かぼちゃ

- (1) 排水溝を整備する等、排水対策を徹底する。
- (2) べと病や疫病等の発生を未然に防止するため、殺菌剤の予防散布を徹底する。

## Ⅲ 果 樹

### 1 果樹全般

- (1) 湿害をさけるために果樹園に排水溝や明渠を掘って、園内が滞水しないようにする。
- (2) 傾斜地では、土壌の流亡を避けるために草生栽培とし、当面耕耘はしない。
- (3) 病害防除のため薬剤散布を行う際は、防除基準の遵守やドリフト低減に努める。

### 2 なし

- (1) 4月の低温による着果不足や果実肥大状況等をよく確認し、極端な小玉果、変形果および障害果等を中心に摘果する。  
また、日照不足に伴い、裂果が多発する恐れがあるため、裂果の発生状況を確認しながら補正摘果を進める。
- (2) 予備枝から発生した新梢を1～2本に整理する。また、混み合っている部分の新梢は数本取り除く。
- (3) 黒星病の芽基部病斑、罹病葉及び果実は見つけ次第摘み取り、ほ場外に持ち出し処分する。薬剤による防除は雨前防除を基本とする。

### 3 ぶどう

- (1) 露地栽培では、摘粒終了後速やかに袋かけを行う。
- (2) べと病、晚腐病の発生が懸念されるので、発生状況に応じた薬剤防除を行う。

#### 4 りんご

- (1) 果実肥大状況等をよく観察しながら着果管理を行う。
- (2) 褐斑病、輪紋病等の発生が懸念されるので予防防除を基本とし、発生状況に応じた薬剤防除を行う。

### IV 花 き

#### 1 花き全般

日照不足によって軟弱徒長となり、品質の低下や灰色かび病等の発生を助長するので、晴天時以外の遮光等は取り除いて日照を確保するとともに、施設内の通気を良くして湿度を下げるよう努める。

#### 2 き く

- (1) 露地ぎくは、ほ場周囲に排水溝を整備し、排水に努める。
- (2) 露地ぎくは黒斑病、褐斑病等が発生しやすいため、殺菌剤の予防散布を徹底する。
- (3) 施設ぎくは、白さび病が発生しやすいため、殺菌剤の予防散布に努めるとともに、病葉の摘除を行う等、発生しにくい環境にする。

#### 3 ば ら

- (1) ベと病が発生しやすいため、湿度を下げるなど環境を整える。また、殺菌剤の予防散布を徹底する。
- (2) うどんこ病が発生しやすいため、窒素肥料の多用を避ける。また、枯れ葉を整理して、通風を良くするとともに、殺菌剤の予防散布を徹底する。

#### 4 シクラメン

- (1) この時期の窒素過多は、葉腐細菌病等の発生を助長するので適正な肥培管理とし、病害の発生しにくい栽培管理に努める。

### V 飼料作物

#### 1 飼料用とうもろこし、牧草

- (1) 湿害が心配されるほ場では、排水溝を整備する等、排水対策を徹底する。

#### (注意)

- ※ 農薬の使用に当たっては、使用基準（適用作物、希釈倍数、使用時期、使用回数等）を厳守する。同一成分の使用回数にも制限があるので注意する。
- ※ 農薬散布に当たっては、飛散防止に十分注意する。